

保護者様

全国学力・学習状況調査結果についてのお知らせ

実りの秋となりました。皆様におかれましてはいかがお過ごしでしょうか。

さて、全国の6年生児童を対象に4月に実施した全国学力・学習状況調査の結果が発表となりました。それをもとに分析した「本校の状況」について報告させていただきます。

<全国学力・学習状況調査の目的>

- (1) 全国の小中学校児童生徒の学習状況について、分析的・総合的に把握し、教育施策に活用するとともに、児童生徒の学力向上などに生かす。
- (2) 各学校においては、自校の一人ひとりの学習状況をとらえ、教科指導や教育評価の改善及び、個に応じた指導の充実などに生かす。
- (3) 児童生徒においては、学力向上のために自らの学習状況をとらえ、学習の改善などに生かす。

<本校の各教科・観点別の調査結果>

桜岡小学校6年生(4月) 平均正答率(%)

	国語A	国語B	算数A	算数B	理科
桜岡小学校	71	58	68	56	59
横浜市	73	56	66	54	61
神奈川県	70	54	64	52	60
全国	70.7	54.7	63.5	51.5	60.3

<考察>

全体的に見て、平均正答率が全国平均前後、もしくは少し上回った。特に算数の「主として知識」の力を見るA問題、「主として活用」の力を見るB問題の両方で、全国平均を4%以上上回っていた。

学習指導要領の領域別平均正答率で見ると、国語Bでは、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の領域において約3%上回っている。しかし、国語Aでは、「話すこと・聞くこと」-4.2%、「書くこと」-1.5%、「読むこと」-1.7%という結果で、基本的な知識の面で課題が見られた。

算数においては、算数Aでは「数と計算」「数量関係」の領域で+7%以上、「量と測定」「図形」で+2~3%と、全ての領域で上回った。また、算数Bでは、全ての領域で3%以上上回っていた。これは、算数の少人数指導による習熟度別学習で、基礎的な知識の定着、自力解決から友達との学び合いと共同思考といった、学習における深い学びがなされているとあってよいのではないだろうか。

一方、理科においては、「エネルギー」の領域では+3.2%であったが、「物質」-1.1%、「生命」-3.1%、「地球」-1%と、全国平均を1.3%下回った。これは、「観察や実験を行うことは好きですか」という質問に対し、9割近くが「好き」「どちらかというとき好き」と回答しているが全国平均よりも少ないので、児童が自ら進んで問題解決していこうと思える魅力的な授業を展開していく必要があると感じた。

児童質問紙からは、特に「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。」「学校のきまりを守っていますか。」「家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか。」「友達との話し合い活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか。」などの項目で他地域に比べて「そう思う」と答えた児童が多かった。一方、「自分には、よいところがあると思いますか。」「将来の夢や目標をもっていますか。」の項目に8割以上は前向きな回答をしているが、全国平均に比べると低い値となっている。

このような結果から、基礎基本の確実な定着を図りながらも、児童一人ひとりの個性を伸ばし自己肯定感を高めて未来に夢や希望をもって歩んでいけるよう支援していきたい。